

保育計画(新規事業計画)成果報告書

法人名等	社会福祉法人善き牧者会
施設名	さゆりこども園
報告者（役職）	菅野 由美（副園長）
住所・連絡先	宮城県仙台市宮城野区柞江 1-2
	☎ 022-293-2653 E-mail s-child-yk@arrow.ocn.ne.jp

○タイトル（保育計画 or 新規事業計画）

「主体性を育むランチルームの環境を充実させる」

○主な助成備品

移動式手洗いユニットじゃぶじゃぶ 1 台、一眼レフカメラセット 1 式

1. 保育計画(新規事業計画)策定の目的

当園では、食育を通した主体性の育成に力を入れており、その方法として子どもたちの給食をビュッフェ形式のランチルームで提供しています。もちろん、施設内の給食室で手作りしており、温かい食事を温かいうちに、食物アレルギーへの対応もしっかりと行っております。子ども自身が自分自身の体と対話し、食べる時間や食べる席を自分で決めたり、食べる量も自分で決めたりします。いわゆる大人からの声を受け身的に受けて食べるのではなく、自ら選んで自分で決めるというスタイルから『主体性』を育てています。認定こども園に認可されてからスタートし、令和5年度で4年目になりますが、コロナ禍でも継続し、子どもたちの豊かな食生活の実現を図ってきました。その中で、ひとつだけ足りないものがあり、それが子ども用の手洗いユニットです。ランチルーム会場となる遊戯室には手洗い施設がなく、食事中食具を落としたり、手が汚れたりした場合もわざわざ保育室に戻ったりする必要があり、動線に問題があると感じてきました。清潔を保ち、衛生的な環境を提供する意味で、今回の助成により手洗いスペースが設置できると、子どもたちにとっても大変有意義なものとなることを目的といたします。

また、カメラの購入によりランチルーム給食での様子を含め、普段の生活の様子を保護者に知らせるためのドキュメンテーションを作成しやすくなると考えました。

2. 具体的な実施内容

ランチルーム給食の場で、手指が汚れたり、食具を落としたりした時に、このユニットを使ってすぐに洗いにいくことができます。さらに、清潔が保てることと、子どもの動線も見守りが容易であるため、安心して過ごすことができます。

また、ドキュメンテーションを作成するうえで必要不可欠であり、特に一眼レフカメラは子どもたちの表情がとらえやすくいい写真が撮れています。

<写真1>



<写真2>



3. その成果と評価

手洗いユニットの導入によりランチルームでの環境を整えることができたことで、子どもたちの清潔を保つことができました。安全な食の環境を整えていくことで、子どもたち自身の健康を守ることができていると考えています（感染症の流行も今シーズンは減少しました）。また、健康であればなお身体を動かしたり、健全な人間関係を構築したりすることができ、集団としてのかかわりも充実していると実感しています。

子どもたちの様子を導入した一眼レフカメラを用いて作成したドキュメンテーションを掲示することで、保護者もそれに関心を持ち、子どもとの対話に活かしているようです。我々が予想していなかった範囲まで良い効果が得られていると感じた一面です。

<図1>

3歳以上児感染症（登園停止）罹患状況

2024.4～2025.2

インフルエンザ	1名
溶連菌感染症	3名
新型コロナウイルス	1名
ヘルパンギーナ	3名

4. 今後の課題と展望

ランチルームで使用する手洗いユニットによって、より充実した空間になっていると実感しています。また、手洗いユニットで子どもたちの健康も保たれていると感じています。

今後その習慣がユニットを用いない場所での手洗いの習慣につながり、子どもたち自身がより感染症予防に関心をもてるように働きかけていきたいと考えています。また保護者への啓蒙も行い、ともに健康生活の充実に寄与できることを課題としていきたいと考えています。

以上